

命ってなに？

(原文)

中山 諒也 (12 歳)

兵庫県

須磨学園中学校

命とは何でしょうか。そのことを考えたときに真っ先に浮かんだのが、私が生きていることなのだと感じました。命があるからこそ、生きていると感じられると思います。私は毎日、睡眠すること、食べることは、何があっても欠かせません。それができない日があるときと体調を崩したり、病気になったりしてしまいます。

私には、家で飼っている犬と猫がいます。犬は私より年上で、勝手に私のおやつを食べたり、ソファの場所を取り合ったりするライバルです。猫は、子猫の頃に家のベランダで死にかけていたのを家族が病院へ連れて行って無事回復し、飼うようになりました。一緒に寝たり遊んだり、とても大事な家族の一員ですが、人間の平均寿命は約 80 歳、犬猫は長く生きて 20 歳です。私はいつもそのことを考えると胸が苦しくなります。きっと私より先に死んでしまう、お別れするときにいつかきってしまう、そんなことを考えると辛く悲しいのです。犬はもう 17 歳でとても長生きですが、もう目も見えていないし、今年の冬には風邪にかかって病院に連れていくと、死ぬ覚悟をするようにと獣医さんに言われましたが、家族の看病もあって何とか回復してくれました。犬や猫をぎゅっと抱きしめると、私より小さな体から、ドクドクドクと速い鼓動が聞こえます。そんなとき私は命について、みんな平等にあればいいのにと考えたり、できるだけ長く生きてほしいと祈ったりします。

そんな私が好きな食べ物はお肉です。焼肉、すき焼き、焼き鳥、ハンバーグ、ステーキが大好きな私は、動物が大好きです。そんな矛盾に気づいたときがありました。小学校 1 年生のときに行った牧場がきっかけでした。そこには牛や豚が飼われていて、そのお肉でソーセージ作りやバーベキューができました。どれも私が好きな食べ物ばかりで食べずにはいられませんでした。知らない間に私はたくさん命を食べていました。

私に食べられた命たちは、どう思っているのでしょうか。もし私が食べられる側だったらきっと、私を食べた命で精一杯に生きてほしい、私の命を無駄にしないでほしい、生きている何かの為になるようなことを成し遂げてほしいと思います。命を頂いて生きている私たちの役割は何か、ということをしっかり考えなければならぬと、毎日の食事で思うようになりました。

食事が普段考えなかった、生きるということを考えるきっかけになりました。私が今ある命で何ができるのか、また今生きていることの幸せを感じることに、命を粗末にせず大事にしなければならぬ

こと、また自分の命だけでなく周りの命を慈しむことを心掛けたいです。人や動物は寿命があるものの、いつ死ぬかなんてわかりません。毎日流れているニュースではコロナで亡くなられた方の人数が発表される、火事や事故で亡くなる方、遠い国では戦争や紛争で亡くなる方もいます。みんなまだまだ生きていたいと願う人だったのではないかと思います。後悔しないように今ある命と共に思いやって楽しく過ごしていきたいと思いました。

私は将来、どうすれば不幸な人や動物を救い、またどうすれば地球環境が良くなるかを考え、問題を解決できるような人物になりたいと思っています。犬猫の殺処分はどうすれば減るのか、貧困でご飯も食べられないような人にどうすれば手を差し伸べることができるのか。まだまだ勉強不足で答えはできませんが、そんな社会で役に立てるような、またみんなが幸せになれるような発見ができるような人になりたいです。その為に今たくさんのことを勉強していると思うと、課題が多くて辛いときも少し力が出ます。これからも今まで食べた命に対して恥ずかしくない生き方をしたいと思います。私の食べた命が、私の血や細胞になって私を見ているから。